

事項	反射資材を利用したりんご「あおり21」（春明21）の貯蔵後のやけ病発生の低減策		
ねらい	<p>「春明21」は、収穫翌年の4～6月を販売期間とする後期販売向け品種であるが、長期貯蔵後に果皮が褐変するやけ病が発生し、外観を損なった果実が多くなる。</p> <p>反射資材を利用して樹冠の光環境改善と果実の着色向上を図ったところ、やけ病の発生が低減できることが明らかになったので参考に供する。</p>		
指導 参考 内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「春明21」のやけ病の発生は、反射資材を利用して樹冠の光環境改善と果実の着色向上を図ると低減できる。</li> <li>2 反射資材は9月下旬から収穫期まで、樹冠下に設置する。</li> <li>3 この反射資材設置によって、「春明21」果実の熟期は早まらない。</li> </ol>		
期待される効果	「春明21」の長期貯蔵後のやけ病発生が低減することで、商品化率が向上する。		
利用上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「春明21」の貯蔵方法はCA貯蔵で、販売期間を翌年の4月から6月までとする。</li> <li>2 CA貯蔵から出庫後は低温下（10℃以下）で管理する。</li> </ol>		
問い合わせ先 (電話番号)	りんご研究所 品種開発部 (0172-52-2331)	対象地域	県下全域
発表文献等	<p>平成25年度 試験研究成績概要集（りんご）（りんご研究所）          東北農業研究 第67号          「春明21の栽培と品質管理のポイント」 「春明21」技術確立プロジェクトチーム編</p>		

【根拠となった主要な試験結果】



写真 貯蔵後のやけ病

赤道部からがくあ部にかけての果皮褐変がやけ病

表1 CA貯蔵出庫時のやけ病発生果率

(平成25年 青森りんご研)

区		供試果数	発生果率(%)
普通台樹	反射資材あり	459	4.6
	反射資材なし	197	9.6
		有意性	*
わい性台樹	反射資材あり	243	0.4
	反射資材なし	157	12.7
		有意性	**

- (注) 1 果実を平成24年11月13日に収穫後、11月30日から平成25年7月2日までCA貯蔵(酸素2.2%、二酸化炭素2.0%)し、7月9日の出庫時に調査を行った。  
 2 普通台樹は平成24年で高接ぎ6、7年の春明21/陸奥/マルバカイドウ20年生樹でわい性台樹は平成24年で6年生春明21/青台3を供試した。  
 3 有意性は母比率の差の検定で、\*は5%水準、\*\*は1%水準で有意差があることを示す。

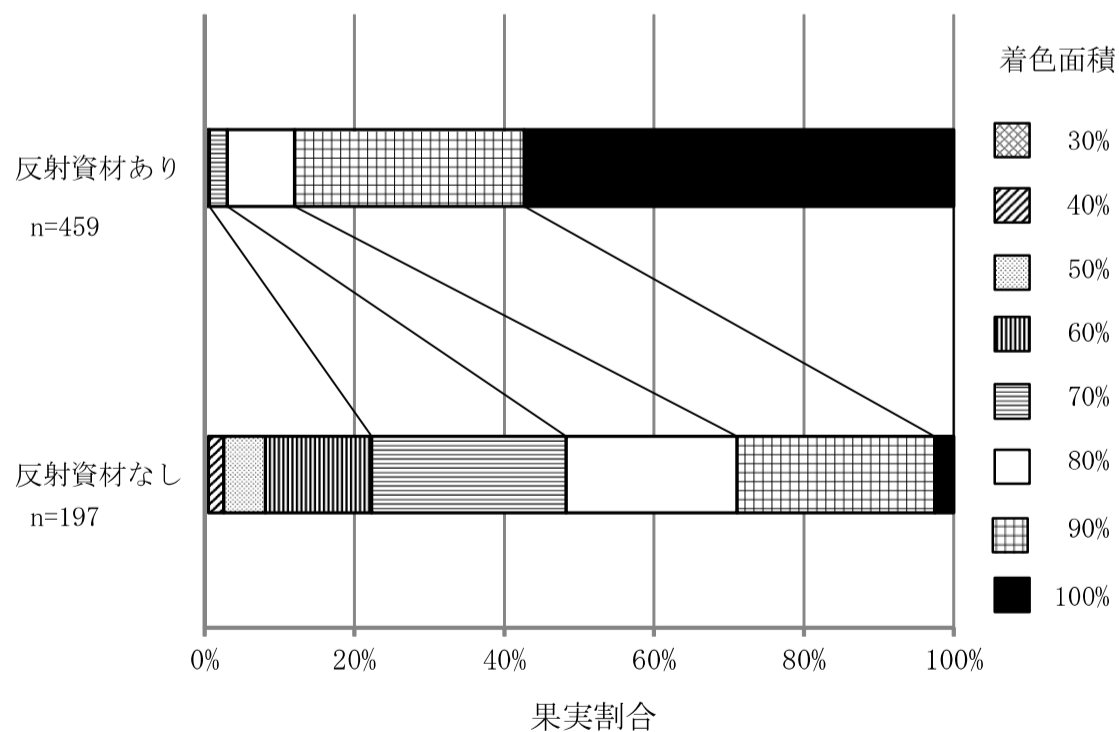


図1 反射資材の有無と着色程度

(平成25年 青森りんご研)

- (注) 1 供試樹は、図1の普通台樹と同じで、反射資材ありの区は9月25日～11月13日までアルミ蒸着フィルムを設置した。  
 2 着色面積は、果実を11月13日に収穫後、達観により10%刻みで評価した。